Primula

Vol.102

プリムラ山の会

目次

In　a　shot ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

お題：定番の山・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

今シーズンの山スキー　まとめ　雪少な！！　初鹿　裕康・・・・・・・・・4

子連れハイク（４歳）市瀬　江利子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・7

積雪期のマイナールートも楽しいワン　U^ェ^U　その 21－23　初鹿　裕康・14

白馬乗鞍岳山スキー　市瀬　江利子・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20

「谷川岳中央稜、瑞牆山夢のカリフォルニア、甲府兜岩のクライミング報告」

佐藤　正俊・・24

編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27

In　a　shot

浅春・自然の中で（妙高笹ヶ峰にて）

岡孝雄　　2016. 05. 08 撮影

3 回目の正直！とは良く言った言葉である。ここ妙高の笹ヶ峰高原にある「夢見平」湿原は、水芭蕉をはじめとする多くの自然と景観が残された数少ない場所である。尾瀬ヶ原の水芭蕉やキスゲは鹿害が多く、奥鬼無里湿原は洪水で景観が変貌したままいまだ回復していない。駒止湿原は大雨で道路の破壊。鳥海も道路寸断等。「夢見平湿原・水芭蕉」の存在を知ったのは５～６年前でした。その後何回か訪れてはいるが、早いか遅い又は天候が良くない。今年は春の訪れが早まりそうなので偵察方々訪れた。「ドンピシャリ」初日に偵察をし「蒼の刻」を捕えるべき３時半駐車場を出たが、思っていたより早い日の出時間。東の空は薄明るくなっていた。露出を切り詰め多くのシャターを切るが、昇ってくるお日様の力にはかなわない。どうしても白とびが記録されてしまう。機械は正直、人間目は感覚。どちらも優れものである。

プリムラの皆さんに水芭蕉の写真を見てもらいたく、陽が昇り湿原が少し明るくなった時のものを載せました。正面に「三田原山」白樺の木立は湿原に変化を与えてくれます。殿様カエルの大合唱は自然の音なのか気になりません。例によってコーヒーとブドウパンを頬張り一服する時間、撮影時の緊張が解けていく。歳をとったのかなー

定番の山

いつも行ってるとか、馴染みがあるとか、懐かしい山とか。

私の定番は越沢バットレスです。初めて行ったのは、30 年程前になりますが、途中ブランクはありますが、未だに通っている。ロープワークの練習、ソロの練習、長い距離を登ることなど、その時々によって目的があるが何で好きなのかと考えてみると、露出感のある空間に身を置く事が好きなのかもしれない。それと帰りの電車内で飲むビール。岩登りを辞めるまで行く事になるのかな。

剱岳が昔は春夏秋冬の定番だったかも。最近は行けてないねぇ。しばらく前の定番は軍畑駅から高水三山を駆け登り、御岳駅まであと 10 分と言う鉄塔で大休止。ラーメン作って、ビール飲んで昼寝でした。

　最近は軍畑駅から青梅丘陵トレラン～河辺・梅の湯。でも、だいぶ飽きてきたかな。新しいトレランコースを検討中です。

富士山」
毎年、GW 明けの週末頃に行く富士山。やはり日本最高峰から滑るのは気持ちがいい。北アルプスを超えるあたりから、空気の薄さを感じる。もちろんツラくなるのだが、意識して呼吸しないとまともに歩けなくなる感覚も好きだ。毎年、登っていると自分の登山力を実感できる。

良く行く山､行きつけの山ってないですねぇ。。。山屋としては、なんとなく寂しい気もしますが。山の形態も色々で、同じ場所に行くこともなかなかないですしね。でも、できれば、春スキーの定番にしたいのは至仏山とか乗鞍とかかな。もう少し近くに行きやすい山でも、あればいいんですけどね。

定番の山、何度も何度も何度も何度も行ったところ
鹿島槍・剱岳・日和田・三ツ峠→学生の頃
天王岩・天王岩（河又）・天王岩（聖人岩）→フリー始めた頃お師匠と
小川山・瑞牆・城ヶ崎・三倉・瑞浪・大堂海岸・ヨセミテ数回→クラックしか登らない人と登っていた頃
高尾山なんちゃってトレラン→定番というほど行ってないけどな
現在パートナー難民かと思われたが案外なんとかなっているってお題と違う
――――――――――

今シーズンの山スキー　まとめ　雪少な！！

初鹿　裕康

20160105　南ア前衛・入笠山(単独)

　考えてみれば、今年は雪がないってことをまったく忘れて、普通に出かけてしまった。富士見パノラマスキー場のゴンドラを降りてスキー場を出たら、すっかり雪がない。なんとか林道の上に多少雪と氷が残っている程度。普通の登山道には全くない。仕方がないのでシールを張って、林道の積雪のある所をを選びながら進む。ひたすら林道を歩いて八ヶ岳ビューポイントの先で板を置いて、兼用靴のまま山頂へ。帰りもしょぼい雪と氷の張った林道をシールを張ったままスキーで滑って来るが、出っ張った石に引っ掛かったのかシールが裂傷を負ってしまった(――〆)

20160123　信州・ロイヤルヒルスキー場～2in1 スキー場

　須玉山小屋泊まりで山スキー。車山の斜面は緑。ロイヤルヒルスキー場トップから八子が峰に向かって多少藪が残っている尾根を進む。スキーのトレースも若干残っている。天気はいまいち。八子が峰手前の 2in1　スキー場を滑り降りて、別荘地をロイヤルヒルスキー場まで歩いたのでした。

20160124　南ア前衛・入笠山(楠井)

　前回よりだいぶ雪が増えた入笠山。しかし寒気が入ってかなり寒い。山をなめてはいけません。

20160311～12　吾妻連峰・西大巓南西尾根(楠井)

　平日休みが取れたので、平日だとかなり安いスキーツアーに出掛ける。約１万７千円でグランデコ１泊朝食付き、リフト券２日付。前に郡山のビジネスホテルに泊まったツアーの値段と余り変わらない。平日は安いねぇ。

初日天気はなんとか持った感じで西大巓往復。

翌日は西吾妻に行こうと思ったが、帰りの時間が決まっているので結構タイト。南西尾根を下ることにする。上部は超樹林帯で滑りにくいが我慢して滑っているとだんだんと広い所が多くなってくる。途中でクラムチャウダーのカップスープをテルモスのお湯で作ったりして、結構余裕で降りて来れる。

20160327～28　北海道・ニセコアンヌプリ～HANAZONO スキー場(楠井)

昨年 2 月頃に予約しようとしたら、全く宿の空きがなかった北海道ツアー。今年は 12 月頃に取りました。安いのを狙って、いろいろキャンセルしたり取ったりを繰り返して、結局ニセコひらふ 2 泊札幌 1 泊朝食付きで 36 千円。ニセコひらふのリフト券 2 日券付き。今思えばリフト券付きで良かった。結構ゲレンデスキーを楽しみました。

2 日目はドピーカン。ニセコアンヌプリに登りだすが楠井さんの体調不良でニセコアンヌプリのみで、後はゲレンデ三昧。

翌日もなんとか天気は持って朝一でアンヌプリ。五色温泉方面に向かうドロップインがとても急に見えたし、ちょっと天気がガスってきたので急遽 HANAZONO に転進。こちらも下降点は意外と急だけど、今回は新しい靴を購入してきたので結構快適に滑れた。サロモンの QUEST ACCESS 60。前の靴ならかなり怖かったかもね。意外と長い急斜面を下の雪の平原に向かって滑っていくと、多方面からスキーのトレースが現れる。林道に合流するあたりから長一く右にトラバースしていくと、HANAZONO スキー場の最下部に到着。途中夏毛のオコジョ見たいのを見かけた。

20160402　北ア・白馬乗鞍(市瀬・北原)

日帰りで白馬乗鞍。最初聞いたときは乗鞍岳のエコーラインまだ空いてないでしょと思ったが、白馬の方だった。梓川 IC を降り、北アルプスを眺めていると既に山の雪は大分落ちてしまった模様。GW 位の感じか？五龍の菱型もバッチリ雪がない。栂池のスキー場も下部は雪がなく、上からなんとか 1 本道で滑って来れる程度の雪。ゴンドラリフトに乗って上部の栂池ロープウエーに乗って 10:30 には登り始める事が出来た。結構な人数が登っているが覆面強盗みたいな人が多いので笑える。新しく買った靴もハイクモードがあるので前の靴より靴づれしないで快適。通販で買ったのでどうなる事かと思ったけど、買って正解だった。天狗原の左側をトラバース気味に登り、最後の急斜面をシールを利かせて登ると白馬乗鞍の三角点に着く。ここでカップスープを飲んで大休止。下りは結構急斜面に見えるが、5 ターン位で下についてしまう。途中で調子に乗ってちょっと転倒。新しい靴に合わせたビンディングがずれたか？？何とか直して再び滑りだす。ちょと足もとが不安になる。まぁ快晴の中、気持ちよくロープウエートップへ。後はゲレンデを滑降。最後はスキーの幅くらいの雪上をなんとか滑ってゴンドラの下駅へ。

20160430 尾瀬・小至仏岳(北原)

天気予報だとあまり良くない予報。とりあえず出掛けてみる。鳩待峠が満車だと困るので 4 時出発。途中ちょっと雨が降って来る。かいま見えた赤城山などの山の上は白く雪が降った模様。戸倉の入口には満車の表示がなかったので、4WD スタッドレスで進む。雪の量がだんだんと増えて行き、鳩待峠手前では立ち往生している車も。鳩待峠には除雪車がいて一生懸命除雪中。雨交じりの雪がまだ止みそうもないので天気の回復を祈念しながら待機。なんとなく空が明るくなったところで出発する。今日積雪があったので鳩待峠からなんとかスキーが着けられた。アイゼン履いているパーティあり、無理矢理スノーシュー着けているパーティ有りで、相変わらず素人集団で賑わっていた。歩いているんだか止まっているんだかわからない人たちを多数抜いて、小至仏山頂へ。いつもはトラバースしてしまうので、全く寄らないが今回はここから先雪がないのでここで終了とする。天気もいまいち。ちょっと休んで、稜線の多少下をトラバース気味に滑って、ブッシュの中を滑降となる。昨日の積雪でなんとか滑れて嬉しい。積雪がなかったらアイスバーンだったかも。快適に滑って登山道に合流したら鳩待峠はすぐだった。

20160521　北ア・乗鞍岳(楠井)

大雪渓下まで春山バスが入ることになったのを聞きつけ、さっそく滑りに行く。何せ新しい板買っちゃったし。

バスを降りるて、早速新しい板に新しいシールを着ける。山スキー用ではないが、walk モードが着いている新しい靴は靴づれもなく結構滑るのもいい感じなので気に入っている。そのため TLT ではなく普通の山スキーのビンディングだけどジルブレッタの 404 よりは、はるかにいいでしょう。快晴の中多数の登山者やスキーヤーと山頂を目指して快適に登る。山頂小屋は小屋のおじさんが除雪中。登りは時間がかかったが下りはあっという間。新しい板が良かったのか悪かったのは不明だが、きちんと滑れたので良しとするか。大雪渓下のバス停から位が原までは雪がつながっているようなので、滑って下ることにする。結構凸凹の雪だが楽しく滑り下りる事が出来た。

20160529　北ア・乗鞍岳(市瀬)

ついでにもう 1 本。

子連れハイク（4 歳）

市瀬　江利子

2016/02/06　千葉房総／鋸岳　（329.5m）　子連れハイク　No.33
メンバー：　初鹿、市瀬、他 2
コースタイム：　東京湾フェリー> 久里浜発(10:20) - 金谷着(11:00)
金谷港(11:20)-関東ふれあいの道分岐(11:45)-車力道コース掲示板(12:00) -石切場跡(12:40) - 鋸山山頂（13:28-14:00） - 地球が丸く見える展望台(14:20-14:25)-車力道下山開始(14:30)-車力道分岐(15:00)-浜金谷駅(15:20) = 海辺の湯へ送迎
東京湾フェリー> 久里浜発(17:20) - 金谷着(18:00)

2016 年最初の山行は 1 月の餅つきハイクでしたが、今回は電車とフェリーを使って千葉房総にある鋸山に行ってきました。

東京湾フェリーに乗るのは初めてで、フェリーで行くとなると、やはり少しわくわくします。
京急久里浜駅でもたもたしているうちに、乗り継ぎのバスには乗り遅れてしまいましたが、タクシーでも 4 人いれば、ほぼ同一料金でした。
港につくと、早速チケットを買って、フェリーに乗り込みます。窓際の席を取り、売店を物色しているうちに、フェリーは動きだします。まずはイワシバーグを買って腹ごしらえです。これが結構美味しくて何本か買い足します。そして、お腹が満たされたら、今度は甲板に向かいます。甲板で景色を楽しんだり、写真を取ったりしているうちに、もう対岸が見えてきます。約 40 分で対岸の金谷に到着です。
港から暫く車道を歩き、金谷駅に向かって一本静かな通りに入って歩きます。道沿いに進み、川を渡ると、関東ふれあいの道との分岐点になります。車力道のほうへ川沿いに左に入って行き、更に 15 分程歩くと掲示板が現れます。ここを左に行くと、車力道の始まりです。ここは、切り出した石をねこ車に乗せて、女性が運んだ道だそうで、石畳は真ん中が窪んでいて、その痕跡が見られます。
石切場跡までは 40 分程度。そして、ここからはものすごく急な階段の連続です。あまりに急なので、子供には前を歩かせ落ちないように気を配ります。急な階段を超えると、やっと尾根上に出られます。ここで、地球が丸く見える展望台でお昼という案もあったのですが、やっぱり頂上を踏まないと、ということで、まずは鋸山山頂へ向かいます。しばらく歩くと左に下って行く登山

道があり、こちらに進むのですが、展望台から約 10 分と観光案内書に書いてある割には意外と遠く、アップダウンもあり、正直、まだかまだかと思いつつ進みます。標識も無く、結構分かり辛いところです。30 分ほど歩き、ようやく頂上につき、ここで遅いお昼を食べます。他にも迷っている家族がいて、ロープウェイはこちらの方向ですか？と何組かの家族に聞かれました。
さて、お昼を食べ終わったら、後は来た道を戻ります。地球が丸く見える展望台で、乗ってきたフェリーを眺め、結局、車力道を戻ることにしました。最初の急な階段が緊張するところで、今度は子供を後ろにして、慎重におろします。段差が高く、滑りやすいので要注意です。下りは約一時間で金谷駅まで到着です。直前に海辺の湯に電話して、送迎をお願いしていたので、待っていてくれた車に乗って、温泉へと向かいました。今回の山行は、私にとっても子供にとってもハードでしたが、良く抱っこと言い出さず、全て自分の足で登ったなと感心しました。ということで、「良く登れたね」と、いっぱい褒めてあげました。

お気に入りのいわしバーグ

始まりはこんな感じです

途中にある案内板

切通しの登山道

やっと頂上に着きました！

帰りの急な階段

Primula　Vol.102
2016/05/14　高尾／小仏城山　（670.3m）　子連れハイク　No.34
メンバー：　初鹿、市瀬、他２
コースタイム：　日影沢林道登山口(13:00) - 東尾根コース - 小仏城山(14:40-15:50) - 日影沢林道 - 日影沢林道登山口(17:10)

新緑を求めて、高尾山の隣にある小仏城山に行ってきました。日影バス停の先から日影沢林道へと入り、ちょっと心許ない橋を渡ると 7-8 台は停まれそうな駐車場があります。満車の状態だったのですが、遅めの到着が幸いし、丁度出て行った車の後に駐車することができました。
さて、今回の目的は頂上のかき氷です。写真で見ると、ものすごく大きく、子供でなくても楽しみになります。この巨大かき氷を餌に、子供を登らせる魂胆です。さて、林道を沢沿いに暫く登って行くと、左側に植物保護の看板があり、ここから沢を渡り、東尾根コースに入ります。最初は若干細く、急な登山道で、不安になりますが、尾根まで出てしまえば、安全で快適な登山道になります。子供は既に背負子もいらず、この日も、飛んでいる蝶や蜘蛛やら木の実、花を見つけては、遊びながら登って行きます。本当にこの数か月間で、ずいぶん成長し、もう抱っこもいわず、どんどん登って行きます。最後は日影沢林道へと出て、ほんの 5 分程で頂上です。
頂上ではお待ちかねのかき氷を、さっそく大サイズ(400 円)、大好きなブルーハワイを頼みます。2 軒ある茶屋が競っているのか、同じようなかき氷を出していて、試に両方の茶屋の氷を買ってみました。味はそんなに変わらないような感じで、どちらも満足のいくボリュームです。練乳と小豆をプラスすると 100 円増しです。シロップ、練乳はかけ放題なので、かなりお得感があります。氷もふわふわで、とっても美味しかったです。ここは昔、陣馬山から高尾山へ縦走した際に来たはずなのに、まったく覚えがないのは、どうやら茶屋のある頂上を捲いてしまったみたいです。
帰りは、子供に気を使わずに歩ける、日影沢林道をのんびり下りました。苺を見つけたり、蝶を追ったりと、気持ちのいい林道でした。シャガの花もたくさん咲いていて綺麗でした。もちらん、帰りは高尾の湯に浸かってから、汗を流して帰りました。

東尾根コースの案内

切株の上で一休み

頂上のかき氷

こちらは宇治金時

記念写真

シャガの花

積雪期のマイナールートも楽しいワン　U^ェ^U　その 21-23

－上越・万太郎尾根の巻－

初鹿　裕康

【コースタイム】

2/27　晴　土樽(9:11)－稜線(11:25)－清水嵓(12:19)

2/28　晴　(9:10)－下降点(9:36)(9:48)－土樽(10:54))

【パーティ】初鹿　裕康、大澤　浩一(川崎芝笛)

上越の尾根でそんなに難しくないところを探す。古道が昔あったらしい万太郎尾根にする。お互い泊りで山に行くのは初めてなので、技術的な物や体力的な物は不明。ちょっとだけ心配。今年は積雪が例年になく少ない。越後湯沢の積雪量は平年比 14%ので 20ｃｍ。泣ける。土樽駅の下りホームから湯沢側に向かったところが、万太郎尾根の末端ではある。下りホームからトレースが上の山小屋に続いており、そこにおじさんがいたので、万太郎尾根に行くと言うと、旧道は旧スキー場の上から真っ直ぐ稜線に上がるらしい。結局土樽山の家から除雪された道をスキー場トップの人家のあるところへ。ここからわかんを履いて急な登りとなる。昨日の積雪が 10ｃｍ位雪の表面に乗っている。積雪が少ないしまだ 2 月の雪なのでなかなか踏んでも締まらない。また、積雪量が少ないため、雪が藪の間に詰まっていないので、ときどき踏み外す。結構な汗をかき、右往左往しながら登る羽目になってしまう。藪があるため直登出来ないのが難。稜線に出れば広くなるだろうとの、希望も空しく稜線に着いて先を見るが、積雪がないためイマイチ藪っぽい。なんとか雪を処理しながら清水嵓へ。ここから急な下降となるので、空身で偵察。やはり、積雪がないので藪をつかみながら、足元も藪と言う感じになってしまう。ちょっと下りの先が見えないし、明日も天気が悪いと言っているので時間はかなり早いが清水嵓で泊ることにする。天気が荒れてしまうと戻るのが結構困難になりそうなので、頂上直下を整地して早速宴会。天気が悪いと言っている割には景色は素晴らしい。とてもいいテン場であった。夜降雪あり。しかし明けてみたら日光がさんさんとテントを照らしているではないか・・・。天気予報大外れである。仕方がないのでたっぷり朝寝して、しぶしぶ下ることになる。下りは大澤さんはアイゼン。私は途中からつぼ足。あっという間にスキー場のアスファルト道。もしかしてふきのとうでも出てるかなと思って、車道を歩いて帰るが、収穫はなし。さすがにまだ早いよね。10 分くらいの遠回りになった。

水上で入浴して帰京。ホテルも最近日帰り入浴を強化？しているので、駅前の観光案内所で割引券をもらって、なるべく近場の湯へ。遠くのふれあい館まで歩かなくて済みました。

Primula　Vol.102
－那須・朝日岳東南稜の巻－
【コースタイム】
3/5　晴 大丸温泉(10:51)－下降点(11:40)－取付(11:57)(12:18)－朝日岳(14:39)(15:05)－峰の茶屋(15:52)－避難小屋(16:06)
3/6　晴　(9:05)－峰の茶屋(9:31)(9:41)－那須茶臼岳(10:24)(10:37)－峰の茶屋
(11:06)(11:18)－大丸温泉(12:27)－那須湯元(13:44)
　【パーティ】初鹿　裕康、山里　守広
　那須のマイナーな登攀ルートを見つけたので、山ちゃんと行くことにした。最初は日光白根のバリエーションを考えていたが、丸沼スキー場のシャトルバスが予約制になったりしてめんどくさそうなので、那須に変更。
　以下、出発までの無駄なメールのやり取り。
2/8 8:28 山ちゃん「山スキーではなく、雪稜ですか？いいですよ。」
3/1(山行 4 日前)　9:15　山ちゃん「山里です。昨日、パソコンから朝日岳東南稜を閲覧しましたが、今の私の力からいくとかなり厳しいです。ザイルを使ってバリの山行を長くやってないので尚更の事です。折角計画して頂いて恐縮ですが、可能であれば、一般ルートから登る事をお願いします。はっきりいってバリは無理です」
　9:41　初　「今さら遅いよ。初心者 3 級 1 ピッチでしょ。ノーザイルのパーティーも単独も山ほどいます。日和田の女岩より簡単。そんな難しいとこ山ちゃん誘わないから。今まで調べてないのがおかしいよ。そのルートのためにすべて私が手配したんだよ」
　9:51　初　「ちなみに山ちゃんいるからザイル持ったんだけどね。本来ならノーザイルでいくところ。ザイル張れば時間かかるけどね。初心者アイゼントレーニングの場所だよ」
　9:55　山ちゃん　「慣れている方はノーザイルでも簡単に登れるでしょう。しかし、私は 7 年ぐらいやってないので力量的にも技術的に不安です。可能なら考え直して頂きたい。それに岩トレーニングもやってないので」
　10:45　初　「いまさら可能じゃないよ。山ちゃんが OK 出したよね。
3 級 1 ピッチ 30m。懸垂 1 回。取り付き～頂上まで 1 時間 30 分。これ以上楽なところはないでしょ。そっちを探すほうが難しい。OK だしたよね。それが問題」
　10:56　初　「(略)基本全部巻いても登れるルートだから選んだんだけど。他探すと体力的に難しくなるよ」
　11:14　初　「難しかったら全部巻く（エスケープルートあり)。全部ザイル出しても(いらないけど）3 時間もあれば抜ける。今からルート変える方がよっぽど危険だと思う。ザイルついてた方が安全でしょう」

12:46　初　「朝日岳東南稜は山ちゃんが行くと言ってくれたので楽しみにしてました。どうしても３級１ピッチも行けないようなら。最終案です。一般ルートは単独でも登れますよね。山ちゃんに団体装備など現地で渡すので一般ルートから朝日岳に登ってください。重たい荷物は峠の避難小屋にデポして置いてもいいです。私は仕方がないので単独で東南稜に行きます。ザイルは現地で渡して下さい。朝日岳山頂で待っていてください。
2 人で行動した方がどう考えてもお互い安全だと思いますが、仕方がないです。危険度は倍になりますね」

12:47　山ちゃん　「山里です。分かりました。宜しくです」

13:23　初　「装備は一式持ってきてね。別行動の場合、朝日岳には私の方が速く着く場合もあるので。避難小屋から朝日岳に来る時はたとえトレースがあってもトラバースせずに登山道を忠実に上がってください。明日例会来るよね。切符渡します」

13:52　山ちゃん　「東南稜は二人で登った方が安全なので計画書通りでやりましょう。宜しくです」

14:05　初　「ありがとう。心強い」　(←嘘っぽい)　(*^_^*)　　↓この稜線。雪がない。

てなことがあって、当日の東京駅新幹線ホーム。山ちゃんの手には朝飯の幕の内弁当と★印のマークがついた 350ml の缶が…。見なかったことにしよう。あっという間に那須塩原。ここから１日２本しか出ていない大丸温泉行きに乗る。1 時間ちょっとかかって大丸温泉。朝のうちは曇っていたが、だんだんと陽が差してきた。今日はいい天気の予報。しかしここで、山ちゃんが「荷物デポしていくんでしょ」とのたまう。計画書では、帰りは那須茶臼岳経由で那須湯元まで歩く予定になっているんだけど、ん～、計画書見てないなぁ。荷物がもうザックに入らないという。ザックの中に銀マットとか厚いシートやら入れてあったら、そりゃ入らないさ。仕方がないので大丸温泉に戻って来ることにして、荷物をデポ。先が思いやられる。天気は快晴無風になって来た。那須で無風なんて珍しい。下の方はまだ積雪が残っているが、上部は風で飛ばされてしまって山肌が見えている。今年は雪が本当に少ない。でかい荷物を背負って下降点に向かう。峰の茶屋が見えてきて、高山植物云々の看板があるところが下降点。荷物をデポしていけば簡単なのだろうが、それでは面白くないので背負って登る。でも、ノー手

袋、ノーアイゼンである。

先行パーティがいるらしく、残雪の後にところどころアイゼンの足跡がある。足跡を追って堰堤まで降りる。上から 2 番目の堰堤あたりが取付か。登攀用具の準備をしてガレっぽい所を登りだす。先行パーティの後を追うように登るが、岩を避けて簡単なところを選んで登るようにしないと、行き詰る感じのルートである。稜線に出てしまえば結構踏み跡っぽい感じで歩きやすくなる。しばらく登っていくと門と言われている岩場に出る。門の間をちょっとノーザイルでクライミングして、細い岩場をトラバースすると、懸垂下降点に出る。7m 位の懸垂。核心部はこの懸垂の先の一手。ザイルを着けてリードするが、なぜかランニングとるような場所もないので、ピナクルにシュリンゲを掛けて登るが、落ちたくないので、一歩登った所に荷物を置いて空身でオンサイト。山ちゃんに登って来てもらって、懸垂して荷物を取りに行く。荷物を持ってレッドポイントし(^o^)、しばらくはノーザイルで。ここの一手が核心。空荷だったらなんてことありません。

踏み跡らしきところをさらに頂上に向かってどんどん高度を上げていくと、壁にぶつかる。先行パーティは右にトラバースして抜けた模様。我々は左に回り込んでスラブ状と言われている岩場を登る。念のためロープを着けるが、スラブって程でもない。すっごく古いピトンが打ってあるので、ランニングを 1 ヶ所だけ取ってあとは、頂上の標識まで駆け上がる。お約束通り朝日岳の頂上の標柱で確保して、山ちゃんが登ってきて終了。握手。

ザイルをしまって、峰の茶屋に向かう。途中の雪上のトラバースもノーアイゼンで平気。峰の茶屋から避難小屋に 20 分ほど下降。トレースがあったので誰かいるかと思ったが無人だった。二重サッシでとても温かい山小屋の 2 階で、テントも張らずに宴会して、そのまま就寝。明日の天気はやっぱ荒れるのかなぁ。

翌、何と晴れている。峰の茶屋に荷物をデポして茶臼岳往復。大丸温泉に降りて、那須湯元まで林道をショートカットしながら下る。これが一番疲れた。湯元の旅館で 500 円の温泉に入る。本当はサウナのためにわざわざ下って来たのだが、めんどくさくなり一番近い温泉宿へ。予定より 1 本早いバスで那須塩原。バス代も 400 円浮いたので、立ち食いそばのお店で座って生ビール、餃子で乾杯。

アイゼン履くようならもう少し楽しいかも、グレード的には 3 級+位ですかね。空荷だったら半日コースでしょうが、荷物背負って登るのが日本のアルパインでしょう（*^_^*)。

↑満足げな山ちゃん

Primula　Vol.102

－北ア・霞沢岳西尾根の巻－

【コースタイム】

4/16　晴 太兵衛平(8:40)－B.C(9:21)(9:32)－霞沢岳(14:03)(14:25)－B.C(16:45)

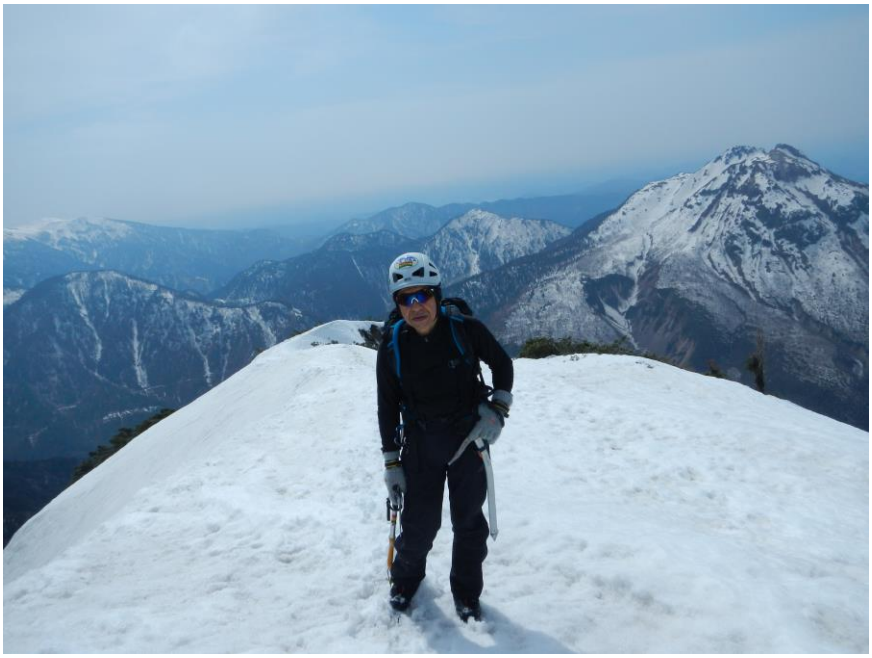
4/17　雨(6:31)－太兵衛平(6:58)

【パーティ】初鹿　裕康、小堀　和貴

今年は上越方面も全く雪がないので雪稜に行けないかもと危惧を覚えたが、4 月 15 日に上高地が開くと言うので場所を検討して霞沢岳西尾根に決める。当初メンバーは 4 人だったが結局小堀さんと 2 名になった。HP で 1 週間前に登っている記事を見るとやはり雪はない模様。日曜日の天気も悪いので、とりあえず下部の方にキャンプを張って土曜日のうちに登ることにする。沢渡に車を止め、たぶん登攀具はいらないよと言うことで登攀具を置き去りにしてシャトルバスで太兵衛平へ。ここは何もない。100m 奥に入った所の左斜面に上の電信柱に登る階段と FIX ロープが見える。ここで準備してメットだけかぶって急な斜面を登りだす。天気はいいので半袖で十分だ。稜線に登った所から藪の中に踏み跡を見つけながら登ることになる。雪があったらテントを張ると言うことにして 40 分ほど登ると残雪が畳 2 畳分くらい残っていたので、笹藪を整地して幕。適当に荷物をテントの中にほっぽって、さらに登っていく。帰りにテントが見つかりますように。しばらく登っていくと雪が斜面に残っていて凍っている斜面に出る。ここでアイゼンを着ける。稜線上は結構藪も開けているので歩きやすい。笹の中の踏み跡も思いのほか分かりやすい。ただし斜面は急なところが多い。だんだんと空が近づいてくると、FIX が張られた

岩場に到着。難なくクリアすると、雪の斜面に出る。ここから霞沢の頂上が見えている。JP のちょっと先が三角点のある山頂だった。春霞がかかっているが 360 度の景色。ここにテントを張ったら気持ちよさそうである。徳本峠の方からトレースが来ている。下りはアイゼンを着けたままテン場まで下り降りる。宴会はテントの中は狭いので小堀さんは外で。もう寒くないねぇ。翌日は雨が降る前に降りようと朝飯抜きで下る。途中間違って崖の方に下りそうになるが、軌道修正して 30 分でバス停に着いてしまった。雨が降って来たが濡れる前に何とかバスに乗り込んだ。

朝東京を出て昼過ぎには 2600m360 度の景色の中にいられるなんて、おいしいルートではないでしょうか。



↑雪があるところでわざわざ撮る

白馬乗鞍岳山スキー

市瀬　江利子

2016/04/02　白馬乗鞍岳　（2436.7m）
メンバー：　北原、初鹿、市瀬
コースタイム：　ロープウェイ＆ゴンドラ終了点(9:45) - 天狗原(11:30 頃) - 白馬乗鞍岳(13:00-13:25)-ゲレンデ経由駐車場(15:00 頃？)

このチャンスが、今年、最初で最後の山スキーかもしれないと思い、思い切って日帰りで行ってきました。しかも、早朝 5 時に自宅まで北原さんに迎えに来てもらうというお姫様待遇です。なかなか家族の休みが揃わない我が家にとって、3 人で休日を過ごせる貴重な一日でもあったのですが、でも、思い切って行って良かったです。日帰りで北アルプスのスケールを味わえ、しかも最高の天気でした！
ゴンドラ終了点から天狗原までは、後半の傾斜が若干急ですが、雄大な景色を見ながら気持ち良く登れます。最後の急登は天狗原を左に巻くようにすると、そのまま天狗原へ登らずにトラバースできます。白馬乗鞍までは、ほぼ直登ですが、昨年の乗鞍の山スキーの時よりも、調子が良く、楽に登れた感じがしました。
頂上でのんびり、景色を堪能し、天狗原までの斜面を滑り降ります。雪は適度にゆるくて、滑りやすく、天狗原へ向かっての滑降は最高です。続けて滑りたい気持ちはあるのですが、もったいなくて、ところどころ、立ち止まっては、景色を楽しみ、また滑り出します。それでも、あっと言う間に天狗原まで来てしまいました。しばし、後ろを振り返り余韻にひたります。
あとは、ゲレンデまで樹林帯のスキーを楽しみ、そこからは長いゲレンデコースを駐車場まで滑ります。今年はどこに行っても雪が極端に少ないのですが、やはりここもやっと繋げて滑る感じで、ブッシュもだいぶ出ていました。
さて、今回ちょっと悔やまれたのは、私と今のスキー板との相性が良くないこと。買った当時から感じていたのですが、どうもしっくりこず、うまく体重が乗せられません。ずっと、どうしようか、考えていたのですが、せっかく、数少ない山スキーに行けるチャンスには、気持ち良く滑りたいと思い、この日、スキーを新調しようと心に決め、その翌々週には、新しい、スキー板と TLT タイプのビンディングに買い換えました。私の愛用していたディアミールのビンディングは、10 年以上も使っていたため、白く変色し、壊れる寸前と言われたので、やはり替え時だったみたいです。願わくは、あと、なんとかもう一回、今シーズン山スキーに行けるチャンスを作れればと、どこか、子供と一緒に行けるところはないか、思案中です。

：天狗原への登り

天狗原からバックに白馬乗鞍岳

天狗原に向けて滑降します

天気が最高に良かったです

天狗原から見た一枚バーン

「谷川岳中央稜、瑞牆山夢のカリフォルニア、甲府兜岩のクライミング報告」

佐藤　正俊

近頃はあまり成果も上がらず、写真も撮っていませんが、最近の山行、３本を報告します。

【　谷川岳、一ノ倉沢、衝立岩、中央稜　記録　】		
年　月　日	平成２８年5月２１日（土）	
登　行　者	田村、室村、池田、今枝、芥川、佐藤	
天候、印象	土合駅で仮眠し、４時に起床、７時には中央稜の取付きに到着。雪は異常に少なくテールリッジへの取付きも今後は難しそう。なお池田さんがテールリッジ直下で雪渓を踏み抜くが、無傷でした。 芥川&佐藤、室村&池田、田村&佐藤で中央稜を登攀するが、下降時間を考慮し、４～５ピッチで登攀を終了する。なお室村さんが５ピッチ目登攀中に大岩が落下し、間一髪で難を逃れ、４ピッチ目ので懸垂ロープがスタックするが何とか回収し、無事下山する。 帰路、今枝さんは運転上手でした。	
月　日	時　刻	摘　要
５月２０日	２０：２０	池袋駅西口を出発
	２３：００	土合駅で仮眠
２１日	４：００	起床
	６：００	一ノ倉沢出合に到着
	７：００	中央稜取付きに到着
	８：００	登攀開始
	１０：３０	終了、４ピッチ目で待機
	１２：３０	中央稜取付きに到着
	１３：３０	一ノ倉沢出合
	１４：３０	パークプラザ
	１６：２０	黒そば「坪の庵」で夕食
	１８：３０	帰宅

【　瑞牆山、夢のカリフォルニア、ハイピークルート　記録　】		
年　月　日	平成２８年5月１４日（土）	
登　行　者	芥川、佐藤	
天候、印象	シーズン初のクラック試しで「夢のカリフォルニア」へ。カムをプレセットし芥川さんが渾身パワー（でも１テンション）で１ピッチ目を抜ける。佐藤はフォローで２テンション。フレアーしたレイバックのカム回収は想定以上に厳しい～。 ２ピッチ目は佐藤がリード。２本のリングボルトでプロテクションを取るが、その先の４番のカムセットが甘くレストで体重を掛けた途端に大フォール。その後はビビりまくりでヨレヨレのトップアウト（涙）。 最後はハイピークルートの最終ピッチを登り本峰からの声援を受け気分も高揚する。	
月　日	時　刻	摘　要
5月１３日	２１：２０	新宿駅西口を出発
	２３：００	塩川ダムで仮眠
１４日	５：００	起床
	６：３０	瑞牆山荘着
	８：３０	大ヤスリ岩基部に到着
	９：００	夢のカリフォルニア、登攀開始
	１２：３０	ハイピークルート、終了
	１３：３０	大ヤスリ岩基部
	２０：００	帰宅

【　甲府兜岩　記録　】		
年　月　日	平成２８年４月２３日（土）	
登　行　者	臼井、吉越、田村、平、沢村、芥川、佐藤	
天候、印象	少し汗ばむ初夏の陽気に、甲府兜岩に初見参。 ルートなやや判りにくく、「春日居ゴルフクラブ」入口の先「兜山登山口」の看板で右折し、後は道なり。 山桜の花びらが降り積む中での優雅なクライミング。 お買得らしい「てんとう虫のレクイエム（１１ｃ★★）」は後半のムーブが判りずらいが、何とか３便でムーブを解析できた。次回はもっとシェイプアップして必ずレッドポイントしたい～！！	
月　日	時　刻	摘　要
４月２３日	６：００ ８：００ １５：３０ １９：３０	新宿駅西口を出発 兜岩に到着 ・　青とブドウ色（１０ａ★★）ｍオンサイト （右から左にカンテを回り込みクラック出口が核心） ・　薫風（１０ａ★★）ｍオンサイト （スラブ風だが実はフェイス、４～５ピンが核心で最後はランナウト） ・　てんとう虫のレクイエム（１１ｃ★★）３便× （４ピン目以降は全て核心でムーブが読み難い） 下山 帰宅

編集後記

わがままを言って１パス。総会を待てという意見もあったけど、やっぱり紙で発行しないとね～はっちゃんどうもありがとう。
どんなのができるのか楽しみ！ってのはいいね。
さてどんな文句を ry
（M）

年度の途中で止めるのはどうかと・・(@_@;)。何でもそうだけど一度止めてしまうと、もう一度やり直すのには物凄いエネルギーがいる。
　山登りも一度体力が落ちてしまうと、元に戻すのはかなり厳しい。だから、頑張って現状維持はしましょうね。皆さん。（H）

※山行一覧は今回はお休みさせていただきます。

Primula　Vol.102　プリムラ山の会

発行日　２０１６年６月１日
発行所　西東京市柳沢５－８－４
発行者　初鹿　裕康
発行人　大坪　邦久